

中 学 校

平成 29 年度

教育研究員研究報告書

外国語

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	2
III	研究仮説	2
IV	研究方法	3
V	研究構想図	5
VI	研究内容	6
VII	研究の成果と課題	22

目的や場面、状況等に応じて即興でやり取りするための指導の工夫

I 研究主題設定の理由

「都民ファーストでつくる『新しい東京』 ～2020年に向けた実行プラン～」(平成28年12月)において述べられているように、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を控え、グローバル化は更に進展し、日常的に外国人とのコミュニケーションを図る機会が増加している。生徒が日常生活の中で外国人と出会う機会が増えることにより、今後ますます、実際に英語を用いて即興でやり取りする力が必要となる。文部科学省は、中学校3年生を対象とした「話すこと」も含めた4技能を測る英語の学力調査を平成31年度から実施するとともに(「全国学力・学習状況調査における中学校英語の実施に関する最終報告」全国的な学力調査に関する専門家会議 平成29年3月29日)、大学入学者選抜においても平成32年度から大学入試センター試験に代えて「大学入学共通テスト」を導入し、英語においては外部検定試験を活用することで、現在の「聞くこと」「読むこと」の2技能の評価から、「話すこと」を含む4技能評価に転換する(「高大接続改革の実施方針等の策定について」文部科学省 平成29年7月13日)としているところである。学校教育においては、これらの社会的背景に対応し、「生徒の即興で話す力」を育成するための指導方法の工夫・改善が期待されている。

しかし現状において、「生徒の即興で話す力」については、「話すこと」に関する指導が十分であるとは言えず、課題は多い。「平成28年度 英語教育改善のための英語力調査報告書」(文部科学省)では、「既習事項の活用」、「即興で話す力」、「即興で話す活動の経験不足」の3点が、「話すこと」の課題として挙げられている。

学習指導要領解説外国語編(文部科学省 平成29年7月)においては、授業における教師の英語使用や生徒の英語による言語活動の割合などが改善されてきている一方で、文法・語彙等の知識がどれだけ身に付いたかという点に重点が置かれ、特に「話すこと」及び「書くこと」などの言語活動が適切に行われていないことや「やり取り」・「即興性」を意識した言語活動が十分でないことが指摘されている。生徒の英語力においては、習得した知識や経験を生かし、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて自分の考えや気持ちなどを適切に表現することなどに課題があるとされている。これらの課題を踏まえ、新学習指導要領では、対話的な言語活動を重視する観点から「話すこと」を「話すこと[やり取り]」と「話すこと[発表]」の2領域として設定し、語彙、文法などの言語材料と言語活動とを効果的に関連付けて、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにすることとしている。[やり取り]と[発表]の二つの領域では、目標を達成するための重要な条件として「即興で」が掲げられている。また、「外国語科の目標(2)」で触れられており、コミュニケーションを行うことによって達成しようとする目的や、話し手や聞き手を含む発話の場面、コミュニケーションの相手との関係性等を設定することは外国語を適切に使用するために必要不可欠であり、外国語で表現し伝え合う力を育成するためには、生徒が

コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を理解した上で言語活動に取り組めるよう、学習過程の改善・充実を図ることが必要であると述べられている。

そこで本研究では、これらの背景と実態を踏まえ、目指す生徒像を「目的や場面、状況等に応じて既習事項を活用し、即興でやり取りすることのできる生徒」とし、研究主題を「目的や場面、状況等に応じて即興でやり取りするための指導の工夫」とした。

II 研究の視点

学習指導要領解説外国語編（平成 29 年 7 月）では、「話すこと [やり取り]」において、『即興で伝え合う』とは、話すための原稿を事前に用意してその内容を覚えたり、話せるように練習したりするなどの準備時間を取ることなく、不適切な間を置かずに相手と事実や意見、気持ちなどを伝え合うことである。」としている。

本研究では、生徒の「即興でやり取りする力」を高めるために、「既習事項を活用させる活動」、「即興でやり取りする言語活動」、「学習意欲を高める課題」を「3本の柱」として設定した。「既習事項を活用させる活動」では、帯活動として Q&A 活動を実施し、生徒が話すための原稿を事前に準備して覚えたりせずとも、「即興でやり取りする言語活動」において十分にやり取りができるよう、即興でやり取りするために必要となる語彙や表現の定着を図った。

「即興でやり取りする言語活動」では、教科書の本文と関連したトピック等について記述したメモを基に、習熟に応じて1分から3分程度 [やり取り] を行う **Minutes Talk** と、生徒同士が写真や絵の様子を伝え合う **Picture Describing** を授業内で繰り返し実施し、不適切な間を置かずに相手と即興でやり取りができるようになるための経験を、生徒が多く得られるよう工夫した。「学習意欲を高める課題」では、生徒が「即興でやり取りする言語活動」等の活動に意欲的に取り組めるよう、単元を通じて指導した「話すこと [やり取り]」の内容について、単元最後に設定したパフォーマンステストを実施するとともに、評価基準表を用いて教師と生徒が評価基準を共有することで、生徒が学習の見通しをもったり、学習を振り返ることで自己の課題に気付いたりする機会が得られるようにした。

これら「3本の柱」を有機的に関連付けて実施・設定することで、「即興でやり取りする言語活動」の効果を高め、生徒の「目的や場面、状況等に応じて即興でやり取りする力」を高めることを目指した。

III 研究仮説

「学習意欲を高める課題」を設定することで生徒の学習意欲を高め、「既習事項を活用させる活動」、「即興でやり取りする言語活動」を継続して指導すれば、コミュニケーションの目的や場面、状況等に応じて、既習事項を活用し即興でやり取りするための表現力が身に付くであろう。

IV 研究方法

生徒の「目的や場面、状況等に応じて即興でやり取りする力」を育成するため、次のとおり研究を行った。

1 課題解決に迫る手だて（「3本の柱」の設定）

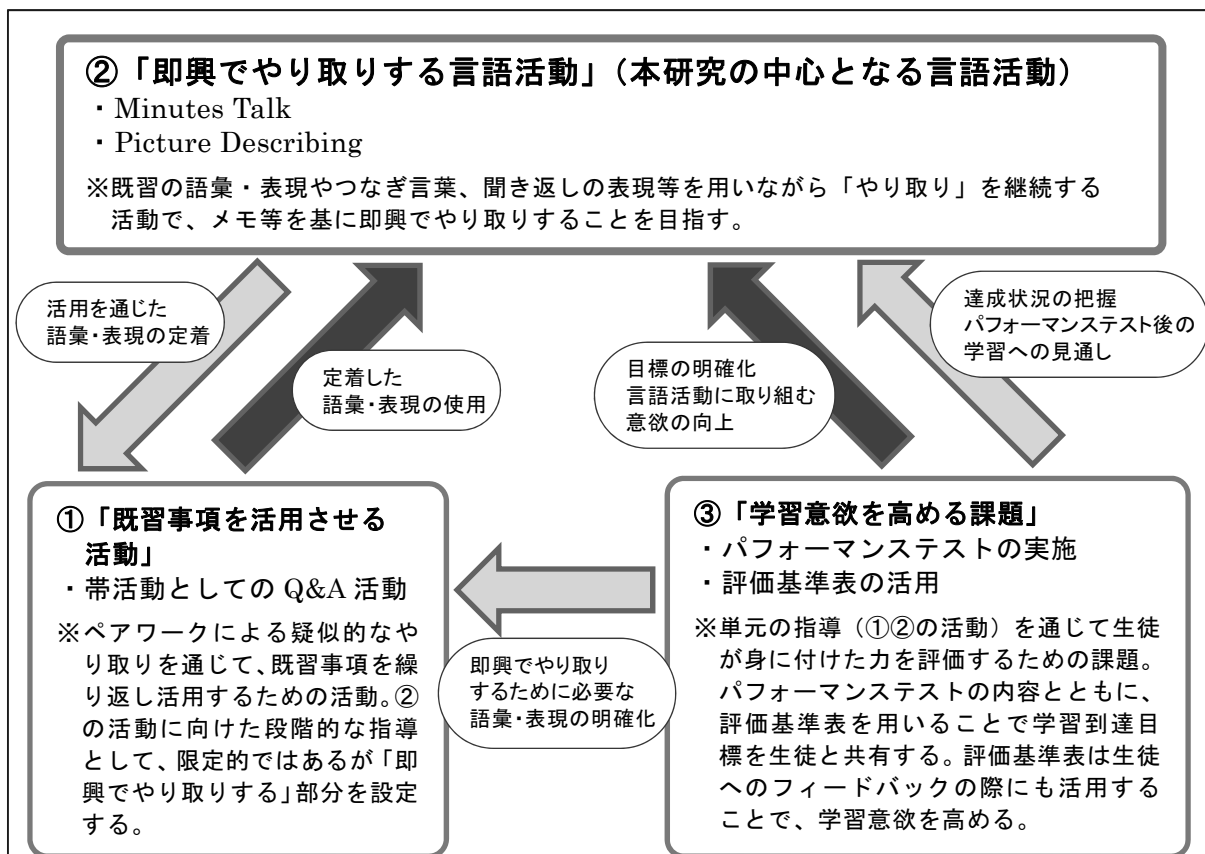
「平成28年度 英語教育改善のための英語力調査報告書」から明らかになったとおり、生徒の「話すこと」には次の三つの課題がある。①「既習事項の活用」については、約40%の生徒は基本的で身近な話題に関する即興的な質問について、時制の誤りなど基本的なミスが繰り返し出てくる、もしくは使える文法や表現が限定的な解答であった。②「即興で話す力」については、約70%の生徒は、即興的な応答においてある程度は適切な内容で応答できているものの、表現の誤り、あいまいさや発話量の不足などにより、十分な応答となっていなかった。③「即興で話す活動の経験不足」については、与えられた課題について即興で話す活動をしていたと答えた生徒は約50%であった。一方で、「話すこと」のテストスコアが高いほど、授業において「与えられた話題について、即興で話す活動をしていたと思う」と回答していた生徒の割合が高いことが分かっている。

本研究においては、生徒の「話すこと」の力の育成に関してこれらの課題を解決するため、学習指導要領解説外国語編（平成29年7月）等を研究し、研究主題及び研究の視点である「3本の柱」を定めた。中心となるのは「即興でやり取りする言語活動」である。本研究では、生徒が「コミュニケーションの目的や場面、状況等に応じて既習事項を活用し即興でやり取りする」ことができるようになるためには「即興でやり取りする言語活動」を設定するだけでは不十分と考え、即興でやり取りする際に必要となる語彙や表現等の既習事項の定着を目指して「既習事項を活用させる活動」を、やり取りする際の目標を明確にすることで生徒が学習の見通しを立て、意欲的に言語活動に取り組めるようになることを目指して「学習意欲を高める課題」を設定した。

なお、「既習事項を活用させる活動」、「即興でやり取りする言語活動」の具体的な実践内容を検討する際には、学習指導要領解説外国語編（平成29年7月）の「言語活動例」や「指導計画の作成と内容の取扱い」に関する記述を参考とした。「既習事項を活用させる活動」については本報告書の6ページから、「即興でやり取りする言語活動」については8ページから、詳細な実践内容を記載している。「3本の柱」の関係性及び各活動の内容は、次ページの【図1】（「即興でやり取りする言語活動」と「既習事項を活用させる活動」、「学習意欲を高める課題」の関係性）のとおりである。

2 授業実践

「学習意欲を高める課題」を設定することで生徒の学習意欲を高め、「既習事項を活用させる活動」、「即興でやり取りする言語活動」を継続して指導すれば、コミュニケーションの目的や場面、状況等に応じて、既習事項を活用し即興でやり取りするための表現力が身に付くという研究仮説を検証するために、教育研究員の所属校において、本研究の「3本の柱」の具体的な取組内容である、帯活動としてのQ&A活動、Minutes Talk、Picture Describingを行った。



【図1】「即興でやり取りする言語活動」と「既習事項を活用させる活動」、「学習意欲を高める課題」の関係性
 ※ ← は実施するねらい、 ← は還元される効果を示している。

また、生徒が身に付けた力を評価するため、パフォーマンステストを単元最後に行うものとし、生徒が意欲的に各活動に取り組めるよう、パフォーマンステストの評価基準を単元の冒頭に提示するとともに、生徒が単元を通じて継続的にパフォーマンステストの評価基準を意識できるように授業を計画した。

3 授業実践を通じて明らかになった成果と課題の整理

検証には、教育研究員による生徒の活動状況の観察に加え、「既習事項を活用できているか」、「即興で会話を継続できているか」等の観点に基づき、生徒が各活動の実施後に行った振り返りの内容を用いた。2回実施した検証授業においては、①「既習事項を活用させる活動」として定めた帯活動としての Q&A 活動が、②「即興でやり取りする言語活動」として定めた Minutes Talk、Picture Describing で活用する語彙や表現の定着を促す活動となっているか、Minutes Talk、Picture Describing が既習事項の活用や即興で会話を継続するための活動となっているか、という視点から仮説の検証を行った。

各活動における生徒の振り返りや、授業実践を通じて教育研究員が行った生徒の活動状況の見取りを通じて、生徒の変容等を考察し、研究の成果と課題をまとめた。

V 研究構想図

【外国語科の目標（現行学習指導要領）】

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。

【現状と課題】

<社会的背景>

- ① 東京 2020 オリンピック・パラリンピック 競技大会の開催、グローバル化の進展、日常的に外国人とのコミュニケーションを図る機会の増加等、英語を用いて即興でやり取りする力が必要
- ② 文部科学省は、平成 31 年度から中学校 3 年生を対象とした、4 技能を測る英語の学力調査を実施
- ③ 「大学入学共通テスト」が平成 32 年度から導入され、英語においては外部検定試験を活用することで、「話すこと」を含む 4 技能評価に転換

<生徒の実態>（表現の能力「話すこと」に課題）

「平成 28 年度 英語教育改善のための英語力調査」(文部科学省)

○ 既習事項の活用に課題

約 40% の生徒は、基本的に身近な話題に関する即興的な質問について、時制の誤りなど基本的なミスが繰り返し出てくる、もしくは使える文法や表現が限定的な解答だった。

○ 即興で話す力に課題

約 70% の生徒は、即興的な応答においてある程度は適切な内容で応答できているものの、表現の誤り、あいまいさや発話量の不足などにより、十分な応答となっていなかった。

○ 即興で話す活動の経験不足

与えられた課題について即興で話す活動をしていたと答えた生徒は約 50% であった。

<新学習指導要領

(平成 29 年 3 月 31 日) >

- 「話すこと」を「話すこと [やり取り]」と「話すこと [発表]」に分け、五つの領域別の目標を設定
- 「話すこと [やり取り]」と「話すこと [発表]」の各領域において、「即興で」を重視
- コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて表現したり伝え合ったりする力の育成

【目指す生徒像】

目的や場面、状況等に応じて既習事項を活用し、即興でやり取りすることのできる生徒

【研究主題】

目的や場面、状況等に応じて即興でやり取りするための指導の工夫

【研究仮説】

「学習意欲を高める課題」を設定することで生徒の学習意欲を高め、「既習事項を活用させる活動」、「即興でやり取りする言語活動」を継続して指導すれば、コミュニケーションの目的や場面、状況等に応じて、既習事項を活用し即興でやり取りするための表現力が身に付くであろう。

【研究内容】

「既習事項を活用させる活動」、「即興でやり取りする言語活動」、「学習意欲を高める課題」を「3本の柱」として設定し、これらを有機的に関連付けて実施することで、「即興でやり取りする言語活動」の効果を高め、生徒の「コミュニケーションの目的や場面、状況等に応じて即興でやり取りする力」を育成することを目指す。

①「既習事項を活用させる活動」

・帯活動としての Q&A 活動
⇒即興でやり取りするために必要となる語彙や表現の定着を図るための活動

②「即興でやり取りする言語活動」

・Minutes Talk
・Picture Describing
⇒目的や場面、状況等に応じて、既習事項を活用しながら即興でやり取りするための言語活動

③「学習意欲を高める課題」

・パフォーマンステストの実施
・評価基準表の活用
⇒生徒が学習の見通しを立てたり振り返ったりする機会を設けることで、生徒の学習意欲を高める課題設定

VI 研究内容

本研究の「3本の柱」である「既習事項を活用させる活動」、「即興でやり取りする言語活動」、「学習意欲を高める課題」の基本的な考え方と具体的な実践内容は次のとおりである。

1 「既習事項を活用させる活動」の考え方と具体的な内容

「即興でやり取りする言語活動」において既習事項を十分に活用するためには、それらの語彙・表現に習熟している必要がある。本研究においては、帯活動としてペアでの Q&A 活動を行い、既習事項を繰り返し活用させることを通じて語彙や表現等を身に付けることができるようにした (Q&A 活動①)。また、この Q&A 活動においては、限定的ながらも即興で自分のことを答える部分を設定し、「即興でやり取りする活動」への段階的な指導となるように工夫した。この際使用する相づちやつなぎ言葉、相手への聞き返し等の表現は、対話をつなげる働きをすることから、生徒に指導する際には「つなげる English」と呼称し、これらを使用する場面を計画的に設定するよう工夫した (Q&A 活動②)。

なお、「つなげる English」の指導においては、「平成 28 年度 教育研究員報告書 (中学校・外国語)」(東京都教育委員会) 10、11 ページに掲載されている「Topic Chat のための表現集」を活用した。

【参考】Topic Chat のための表現集 (抜粋)

相手の発言を「受ける」表現	I think so, too. / Me, too. / Right. / I don't think so. I see. / Really? / Wow! / That's nice. / How exciting.
会話を「広げる」表現	I think / I don't think / I want to I didn't know that. / I have no idea. / So ... / Because ...
相手に「返す」表現	What? / Who? / When? / Where? / Which? / Why? / How? How was it? / What do you mean? / For example?
その他便利な表現	Well... / Let me see... / Pardon? / Sorry? / Excuse me? I mean... / The thing is ... / You know ... / By the way ...

(1) Q&A 活動①

疑似的なやり取りを通じて、生徒が既習事項を繰り返し活用するための活動である。ワークシートに仮の答えを示しておくなどして、答える内容を考える負荷を軽減し、「相手に質問する」、「相手の質問を理解し素早く答える」ことを目指している。ワークシートには「確認用」と「練習用」の2種類があり、「確認用」には日本語で示された場面・状況設定だけではなく、質問の英文、解答のヒントとしての英語が書かれている。「確認用」で十分習熟した生徒は、「練習用」のワークシートを用いて、日本語で示された場面・状況設定のみから質問及び相手からの質問に対する回答を行う。

なお、生徒の習熟の度合いに合わせて、質問に答えるだけでなく、聞き返しの表現を意図的に練習することを目指して作成した「聞き返し上達シート」も随時活用した。

ア 活動手順 (生徒が行う活動内容)

- ペアをつくり質問役と回答役を決める。
- 「自分の答え」欄に、自分自身の答えをメモする。
- 習熟の初期段階では「確認用」を、十分に習熟した段階では「練習用」のワークシートを準備する。

イ Q&A 活動① ワークシートの例① [第1学年]

Q & A 活動：ペアワーク【1週間】（確認用）
目標：曜日をたずねたり、毎週することを言えるようになる。
 1年（ ）組（ ）番 氏名（ ）

次のような場面でのどのように言いますか。

	日本語	Question Side	Answer Side	自分の答え	仮の答え
1	相手に、何曜日がたずねるとき。	What day is it today?	It's ~.		今日の曜日
2	相手に、今日が何月何日かたずねるとき。	What's the date today?	It's ~.		今日の日付
3	相手に、月曜日に何をするか聞くとき。	What do you do on Mondays?	I ~ on Mondays .		英語の勉強
4	相手に、火曜日に何をするか聞くとき。	What do you do on Tuesdays?	I ~ on Tuesdays .		バスケ
5	相手に、水曜日に何をするか聞くとき。	What do you do on Wednesdays?	I ~ on Wednesdays .		ギター
6	相手に、木曜日に何をするか聞くとき。	What do you do on Thursdays?	I ~ on Thursdays .		宿題
7	相手に、金曜日に何をするか聞くとき。	What do you do on Fridays?	I ~ on Fridays .		部屋の掃除
8	相手に、土曜日に何をするか聞くとき。	What do you do on Saturdays?	I ~ on Saturdays .		家の手伝い
9	相手に、日曜日に何をするか聞くとき。	What do you do on Sundays?	I ~ on Sundays .		買い物
10	相手に、土曜日と日曜日に何をするか聞くとき。	What do you do on Saturdays and Sundays?	I ~ on Saturdays and Sundays .		数学の勉強
11	相手に、火曜日と水曜日と木曜日に何をするか聞くとき。	What do you do on Tuesdays, Wednesdays and Thursdays?	I ~ on Tuesdays, Wednesdays and Thursdays .		野球

※2つ以上のものを並べるとき、最後の単語の前にandをつける。

【やり方】

- 1 自分の答えを決める。事実通りでなくてもよい。必ず違う答えになるように。
- 2 最終的に、日本語だけを見ながら、英語で質問できるようになる。
- 3 英語で聞かれたことに、答えられるようになる。答えが浮かばない人は、「仮の答え」で答えること。
- 4 ペアになり、日本語だけを見て、相手に英語で質問する。相手は英語で答える。

【図2】Q&A ワークシート

※「練習用」のワークシートにおいては「場面・状況設定」及び「仮の答え」のみ記載されている。

ウ Q&A 活動① ワークシートの例② [第2学年]

聞き返し上達シート！

英会話上達のコツ、それはたくさん質問すること。でも、質問に答えただけでは会話は続きません。こちらから何も問いかねなければそこで会話は終了です。答えるだけでなく、そこから新たな会話を作り出す「聞き返し」の力をつけましょう。そうすれば上達間違いなし！

	Question	Answer	適切な聞き返しの例
1	How are you ? / How's it going?	I'm fine / sleepy / excited / tired / hungry / full.	Thank you. And you?
2	How is the weather today?	It's sunny/ cloudy / rainy .	How are you feeling?
3	What day is it today?	It's Monday.	What do you usually do on Mondays?
4	What's the date today?	It's October 31 st .	What will you do this evening?
5	Do you like apples?	Yes, I do. / No, I don't.	How about oranges?
6	How long did you study yesterday?	I studied for ○○ minutes / hours.	Did you study yesterday?
7	Do you have any pets?	Yes, I have two dogs. / No, I don't.	How about you?
8	Where do you live?	I live in ○○ (住んでいる場所) . ★I live near ○○ (家の近くにあるもの) .	Where do you live?
9	Who is your favorite person?	My favorite person is ○○ (好きな人物) .	Do you know him/ her?
10	What did you do after school yesterday?	I listened to music and studied a lot (昨日したこと) !	What will you do after school today?
11	When you are free, what do you do?	I play videogames or read books (暇なときすること) .	What do you like to do when you're free?
12	How was your weekend?	It was good / nice. I went shopping (週末したこと) .	How about you?

自己評価 ②のところは【4→よくできた 3→できた 2→あまりできなかった 1→できなかった】

Date →	/	/	/	/	/	/	/	/
①何回聞き返し質問ができましたか？	回	回	回	回	回	回	回	回
②スムーズにやり取りできましたか？								

【図3】聞き返し上達シート

(2) Q&A 活動②

Q&A 活動①で習熟した既習事項を用いて、示された大まかな流れの中でやり取りを行う活動である。「即興でやり取りする言語活動」に向けた段階的な指導として位置付けるため、限定的ではあるが、即興でやり取りを行う場面として設定した。一つの場面・状況設定のもとで生徒 A と生徒 B が対話を行うペアワークである。

ア 活動手順（生徒が行う活動内容）

- やり取りを行う内容について、自分自身の答えを準備すべき部分があるため、その答えを考える。
- ペアをつくりどちらが先に質問をするか決める。
- ワークシートに示された活動の流れに沿ってやり取りを行う。
- 一つのペアでやり取りが終了したら、次の相手を探して同じ活動を繰り返す。

イ Q&A 活動② ワークシートの例

Q&A ペアワーク【1 週間】

Class(1-) No.() Name()

「目標」：即興で、普段していることを表現できる。

場面：学校で、休み時間、AとBが普段の生活について話している

Aの普段の生活	Bの普段の生活
月曜日 自分の部屋の掃除	月曜日 [教科]の勉強をする
火曜日 [スポーツ]をする	火曜日 自分の宿題をする
水曜日 ゲームをする	水曜日 [楽器]を弾く
木曜日 自分の母を手伝う	木曜日 自分の父を手伝う
金曜日 [楽器]を弾く	金曜日 自分の部屋の掃除
土曜日 自分の宿題をする	土曜日 テレビでドラマを見る
日曜日 [番組]をテレビで見る	日曜日 買い物に行く

やり方

- ① ペアをつくる。Rock, paper, scissors. One, two, three.
※毎回、違うペアですること。
- ② 勝った方が、今日の曜日をたずねる。負けた方は、答える。
- ③ 上の計画をもとに、勝った方がA、負けた方がBになり、下の例のようにペアで会話。ただし、[スポーツ][教科][楽器]については自分の答えを言う。(事実でなくてもよい) **終わったら、次のパートナーを探して、ペアワーク。**

例 (Aが勝った場合)

A：曜日をとずねる。

B：答える。

A：その曜日には、毎週何をするか聞く。

B：(ちょっと考えて) 答える。Aはどうかたずねる。

A：(ちょっと考えて) 答える。Bに別な曜日に、毎週何をするか予定か聞く。

B：(ちょっと考えて) 答える。Aはどうかたずねる。

A：(ちょっと考えて) 答える。(別れ、つぎのペアを捜す。)

「つなげる English」の例：話をつなげるときに使います。

- ・ 「えっ〜と」(ちょっと考えるとき) → Well...など
- ・ 「えっ」(おどろくとき) → Oh!, Really?など
- ・ 【聞き返すとき】 → Pardon?, Excuse me?など

※振り返り【4：できた / 3：まあまあできた / 2：あまりできなかった / 1：できなかった】

日付	/	/	/	/	/	/	/	/
間違いを気にせず、会話を続けることができた								
「つなげる English」をうまくつかうことができた								
「目標」の表現を、自信をもって使うことができた								

【図4】Q&A ワークシート②

※扱う場面・状況設定や語彙・表現は、学習の進度に従って適宜変更する。

2 「即興でやり取りする言語活動」の考え方と具体的な内容

「話すこと」の言語活動において、事前に原稿を準備し、練習してから発表を行うスピーチや、定められた台詞の一部を変更して自分のことを表現し、疑似的なやり取りを行う言語活動は既に多く実践されている。しかし「やり取り」・「即興性」を意識した言語活動については十分に実施されているとは言えない現状がある。そこで本研究では、「学習指導要領解説 外国語編」(平成29年7月)に示されている言語活動の例を参考に、即興でやり取りを行う

ための言語活動である Minutes Talk、Picture Describing を考案した。初めて即興でやり取りを行う生徒にとって、発話の材料が何もない状態で活動を行うことは非常に負荷が高いため、話すための材料を基に即興でやり取りを行うことができるこれら二つの活動を取り上げることとした。Minutes Talk においてはメモを、Picture Describing においてはイラストや写真を基にして、即興でやり取りを行えるよう活動を設定した。

(1) Minutes Talk

与えられたトピックに沿って即興でやり取りを行うことを目指す言語活動である。教科書本文の内容を扱う過程で実施できる活動となるように、トピックは教科書の単元で扱っている話題等と関連するように工夫し、トピックの設定方法によって既習事項を効果的に活用させることができるようにした。また、やり取りの際に参照するメモは、対話のトピックをシートを中心に記入し、その周囲に関連したキーワードを配置する形式とし、本研究においてはこのメモを「マッピングシート」と呼ぶこととした。なお、本活動を実施する際の時間設定は、生徒の学年や習熟の実態に応じて適宜1分から3分程度に変更する場合があることから、活動名においては「分」の複数形である「Minutes」を用いた。

ア 活動手順（生徒が行う活動内容）

① やり取りのための準備（マッピングシートを用いた情報の整理）

- ・ マッピングシートの中央に、提示したトピックを記入する。
- ・ トピックについて知っている内容を、メモとしてトピックの周囲に記入する。
- ・ メモは、キーワードのように短いものとし、文では書かない。

② やり取りの活動

- ・ ペアをつくり、最初に質問をする人を決める。
- ・ 質問をする側は、一つ質問をしたら相手の反応を待ち、相手の意見や質問に答えながら会話を進める。
- ・ 質問をされる側は、既習事項を活用して相手の質問に答えるとともに、自分の意見や相手への質問を返ししながら、対話を続ける。
- ・ 制限時間終了後、会話をやめ、自己評価（振り返り）を行う。

イ マッピングシートの例

The image shows a template for a 'Minutes Talk Mapping Sheet'. At the top, it is titled '★Minutes Talk Mapping Sheet★'. Below the title, there is a small instruction: '「何を話したらいいかわからない…」という時のための準備シート。トピックについて知っていること、想定される会話について自分の考えを整理しよう。'. To the right of this instruction is a line for a number, labeled 'No. _____'. The main body of the sheet is a large rectangular box. In the center of this box, there is a smaller rectangular box containing the text 'トピック・最初の質問'. Below this smaller box is a large, empty oval shape, intended for the student to write their topic and initial question.

【図5】
マッピングシート

エ Minuets Talk のやり取り例（第2学年）

〈トピック：What do you like to do in your free time?〉

※下線部が、活用を想定している既習事項（to 不定詞の名詞的用法）

S1 : Hello. What do you like to do in your free time?

S2 : Well..., I like to read books. I often go to the library. How about you?

S1 : Uh..., I like to listen to music in my room.

S2 : Sounds good. What kind of music do you like?

S1 : I like classical music. And I also like to play the piano.

S2 : Oh, really? You can play the piano? I didn't know that.

S1 : Yes. What kind of books do you read?

S2 : I like SF novels. I like to read and study about science.

S1 : Wow! You're scientist!

オ やり取りで使用する既習事項等

① 既習の語彙や表現等

「既習事項を活用させる活動」である、帯活動としての Q&A 活動を通じて既習事項の定着を図り、やり取りの中で使用できるようにした。

② 「つなげる English」（つなぎ言葉、聞き返しの表現等）

やり取りを円滑にするためのつなぎ言葉、聞き返しの表現等については、教師とのインタラクションや帯活動としての Q&A 活動において、使用する語や表現を指定するなどして繰り返し活用させるよう工夫した。

カ Minutes Talk 実施後の振り返り

上記「Minutes Talk のワークシート例」の③にも示したとおり、生徒に達成すべき目標を示すとともに、生徒自身が次回の学習に向けて活動内容を振り返り学習の見通しをもてるよう、ワークシートには振り返りの記入欄を作成した。本活動を通じて「目的や場面、状況に応じて既習事項を活用し、即興でやり取りすることのできる生徒」の育成を図るに当たり、生徒自身が間違いを恐れずに英語を話そうとする意欲も大きく関わることから、その点も振り返りの内容に含めることとした。振り返りの内容は次の3点である。

- 習った表現を使ってその場でやり取りできたか。
- 「つなげる English」を使って会話を継続できたか。
- 間違いを恐れず英語を話すことができたか。

(2) Picture Describing

題材として与えられたイラストや写真について、やり取りを行いながら相手に説明する言語活動である。Minutes Talk 同様、教科書の本文を扱う過程で実施する活動となるよう、生徒に示すイラストや写真は、教科書の本文や新出の文法事項に関連するものとした。一般的な Picture Describing はイラストや写真を基に説明のみを行う「話すこと [発表]」の領域に当たる場合が多いが、本研究における Picture Describing では、一方の生徒のみがイラストや写真を見ている状態で説明を行い、もう一方の生徒が知りたい情報を質問しながらイラ

ストや写真の内容を当てるといふ、やり取りを発生させるためのインフォメーション・ギャップを生かした活動として設定した。

なお、本活動のやり取りにおいて使用する既習事項等や活動の実施後の振り返りについては、Minutes Talk と同様に扱うこととした。

ア 活動手順（生徒が行う活動内容）

① やり取りのための準備

- ・ ペアをつくり、一方の生徒が机に伏せてイラストや写真を見ないようにする。
- ・ 教師がトピックとなるイラストや写真を、伏せていない生徒に提示する。
- ・ イラストや写真を見た生徒は、そのものを指し示す単語を用いずに三つの英文で説明できるよう、説明内容を考える。

② やり取りの活動

- ・ 説明する側は、三つの英文のうち一文は指定された既習事項を用いて、残りの2文は内容を説明するために適切な内容を考えて説明する。
- ・ 説明をされる側は、三つの英文を聞いた後、答えが分かった場合も確認のため必ず一文は説明する側に質問する。
- ・ 説明する側は相手の質問に答えるとともに、補足の説明を行う。説明が思いつかない状況になった場合は、「That's all.」と言って相手に説明終了を告げる。
- ・ 説明される側は、自分が答えを思いつくまで相手に質問を行い、最終的に「Is it ○○?」や「Is he ○○?」のような形で、説明する側に答えを伝える。

イ Picture Describing のやり取り例（第2学年）

〈イラストで示されたもの：a supermarket〉

※職場体験学習について扱う単元で、体験場所となる場所のイラストや写真を示して活動を行うことを想定。下線部が、活用を想定している既習事項（to 不定詞の形容的用法）

S1 : This is a very big building. This is a place to buy many kinds of things.

You can see many fresh vegetables there.

S2 : Well..., can we buy bread, too?

S1 : Yes, you can. You can also buy rice.

S2 : Can I eat bread there?

S1 : In some places, you can eat bread or other foods.

S2 : Is it a supermarket?

3 「学習意欲を高める課題」の考え方と具体的な内容

生徒の「目的や場面、状況等に応じて即興でやり取りする力」を育成するためには、「即興でやり取りする言語活動」を効果的に実施することが大変重要である。そのためには、指導を通じて生徒が身に付けた「話すこと [やり取り]」の力を適切に評価し、その結果を生徒にフィードバックすることで、生徒自身が学習内容を振り返り、自らの課題を理解し、その後の「既習事項を活用させる活動」、「即興でやり取りする言語活動」に意欲的に取り組むことが必要である。そこで本研究においては、単元の最後に実際の指導内容に基づいた「話すこ

と「やり取り」のパフォーマンステストを実施するとともに、評価基準表をワークシートとして事前に生徒に配布して評価基準を周知することで、生徒が学習の見通しをもって授業に取り組めるように工夫した。

(1) パフォーマンステスト

パフォーマンステストは、Minutes Talk で実施した内容に基づき、示されたトピックについて教師と一対一でやり取りを行うものとした。テストの実施時間は、授業内で全ての生徒に対してテストを行うという時間上の制約を踏まえつつ、やり取りとして十分な回数が確保できると考えられる1分間を原則とした。

ア パフォーマンステストの実施例

① 第1学年 トピック「自分の一日の生活について表現する。」

※「即興でやり取りする言語活動」においては「What time do you usually get up?」をトピック・最初の質問として練習してきたことを踏まえて実施

S: Hi.
T: Hi. What time do you usually get up?
S: I get up at seven.
T: OK.
S: How about you?
T: I usually get up at five.
S: Oh, Really?
T: What time do you eat breakfast?
S: I eat breakfast at seven thirty.
T: That's good.
S: What time do you come to school?
T: I come to school at eight.
S: Me too.

② 第1学年 トピック「自分の身近な人を紹介する。」

※「即興でやり取りする言語活動」においては「Can you talk about one of your friends / family / club members?」をトピック・最初の質問として練習した上で実施。パフォーマンステストの際は生徒自身が最初にトピックを述べるよう指導した。

S: Hi. My Topic is my friend, Takashi.
T: OK. Let's start.
S: This is my friend, Takashi. (授業で使用していた簡単な似顔絵を見せる。)
He likes basketball.
T: I see. Does he play basketball?
S: Yes, he does.
T: Does he like sports?
S: Yes. Of course.
T: That's good. Does he run fast?
S: Yes, he does.
T: Oh, great. What animal does he have?
S: He has a dog. He likes dogs. How about you?
T: I don't have any pets but I want to have a cat.

イ パフォーマンステストの評価

パフォーマンステストの評価は、生徒にあらかじめ配布し内容を周知している評価基準表に基づいて行った。テスト実施後には、生徒一人一人に個別に用意した評価基準表に結果を記入して、生徒に手渡した。生徒がテストの内容を振り返り、感想や今後の取組目標

等を記入できるよう指導を行った。

(2) パフォーマンステストで使用する評価基準表

中央教育審議会「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成するために～」答申（平成24年3月）（用語集）によると、評価基準表は「米国で開発された学習評価の基準の作成方法であり、評価水準である『尺度』と、尺度を満たした場合の『特徴の記述』で構成される」ものであり、「記述により達成水準等が明確化されることにより、他の手段では困難な、パフォーマンス等の定性的な評価に向くとされ、評価者・被評価者の認識の共有、複数の評価者による評価の標準化等のメリットがある」とされている。また、「教育課程部会 総則・評価特別部会（第4回）配付資料」（文部科学省 平成28年1月）によると、評価基準表の一般的な特徴として、①達成水準が明確化され、複数の評価者による評価の標準化がはかれること、②教える側（評価者）と学習者（被評価者）の間で評価基準が共有されることが挙げられている。

これらの特徴を踏まえ、本研究では単元の指導の初期において、帯活動としての「Q&A活動①」のワークシートの裏面に評価基準表を記載し、生徒と教師で目標及びパフォーマンステストの評価基準を共有するとともに、生徒が学習の見通しをもてるようにすることで、生徒自身が「即興でやり取りする言語活動」に意欲的に取り組めるよう工夫した。

ア 評価基準表の例〔第1学年後期〕

<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">1年後期</div> 目標「身近な人のことを友達に伝えたり、たずねたりすることができる」																																																			
<h2 style="margin: 0;">パフォーマンステスト評価基準表</h2> <p style="font-size: small; margin: 5px 0;">☆今学習している単元の終了後に実施するパフォーマンステストの評価表です。目標が達成できるように日頃から授業に取り組みましょう。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">評価の観点 / 評価</th> <th style="width: 25%;">A</th> <th style="width: 25%;">B</th> <th style="width: 35%;">C</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>関心・意欲・態度 (継続性)</td> <td>間違いを恐れずに、相づちやジェスチャー等も入れ、会話を続けようとする事ができた。(1分間に5ターン以上)</td> <td>間違いを恐れずに、会話を続けようとしたが、(1分間に3ターン程度)相づちやジェスチャー等を十分に入れることができなかった。</td> <td>間違いを気にするあまり、口数が少なくなり、(1分間に2ターン以下)相づちやジェスチャーを全く入れることができなかった。</td> </tr> <tr> <td>表現 (内容)</td> <td>相手の言ったことに対して、適切な相づちを打ち、共感を示し、つなぎ言葉を用い応答できた。</td> <td>相手の言ったことに対して、適切に相づちをうち、共感を示しながら応答しているが、不自然な間が見られた。</td> <td>相手の言ったことに対して、相づちや共感が見られず、単語で応答するか、または応答できなかった。</td> </tr> <tr> <td>知識・理解 (正確性)</td> <td>相手の言ったことに対して、正しい文法で8割以上、応答することができた。</td> <td>相手の言ったことに対して、正しい文法で半分以上、応答することができた。</td> <td>相手の言ったことに対して、正しい文法で応答できたのは半分に満たず、やり取りとして不十分だった。</td> </tr> </tbody> </table> <p style="font-size: x-small; margin: 5px 0;">☆Q&A 活動①の振り返り【4:できた 3:まあまあできた 2:あまりできなかった 1:できなかった】 ☆パフォーマンステスト後の振り返り</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">日付</th> <th style="width: 10%;">/</th> <th style="width: 10%;">/</th> <th style="width: 10%;">/</th> <th style="width: 10%;">/</th> <th style="width: 10%;">/</th> <th style="width: 10%;">/</th> <th style="width: 10%;">/</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・間違いを恐れずに、会話を続けることができた。</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>・「つなげる English」をうまく使うことができた。</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>・自信を持ってゴールの表現を使うことができた。</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> </tbody> </table>				評価の観点 / 評価	A	B	C	関心・意欲・態度 (継続性)	間違いを恐れずに、相づちやジェスチャー等も入れ、会話を続けようとする事ができた。(1分間に5ターン以上)	間違いを恐れずに、会話を続けようとしたが、(1分間に3ターン程度)相づちやジェスチャー等を十分に入れることができなかった。	間違いを気にするあまり、口数が少なくなり、(1分間に2ターン以下)相づちやジェスチャーを全く入れることができなかった。	表現 (内容)	相手の言ったことに対して、適切な相づちを打ち、共感を示し、つなぎ言葉を用い応答できた。	相手の言ったことに対して、適切に相づちをうち、共感を示しながら応答しているが、不自然な間が見られた。	相手の言ったことに対して、相づちや共感が見られず、単語で応答するか、または応答できなかった。	知識・理解 (正確性)	相手の言ったことに対して、正しい文法で8割以上、応答することができた。	相手の言ったことに対して、正しい文法で半分以上、応答することができた。	相手の言ったことに対して、正しい文法で応答できたのは半分に満たず、やり取りとして不十分だった。	日付	/	/	/	/	/	/	/	・間違いを恐れずに、会話を続けることができた。								・「つなげる English」をうまく使うことができた。								・自信を持ってゴールの表現を使うことができた。							
評価の観点 / 評価	A	B	C																																																
関心・意欲・態度 (継続性)	間違いを恐れずに、相づちやジェスチャー等も入れ、会話を続けようとする事ができた。(1分間に5ターン以上)	間違いを恐れずに、会話を続けようとしたが、(1分間に3ターン程度)相づちやジェスチャー等を十分に入れることができなかった。	間違いを気にするあまり、口数が少なくなり、(1分間に2ターン以下)相づちやジェスチャーを全く入れることができなかった。																																																
表現 (内容)	相手の言ったことに対して、適切な相づちを打ち、共感を示し、つなぎ言葉を用い応答できた。	相手の言ったことに対して、適切に相づちをうち、共感を示しながら応答しているが、不自然な間が見られた。	相手の言ったことに対して、相づちや共感が見られず、単語で応答するか、または応答できなかった。																																																
知識・理解 (正確性)	相手の言ったことに対して、正しい文法で8割以上、応答することができた。	相手の言ったことに対して、正しい文法で半分以上、応答することができた。	相手の言ったことに対して、正しい文法で応答できたのは半分に満たず、やり取りとして不十分だった。																																																
日付	/	/	/	/	/	/	/																																												
・間違いを恐れずに、会話を続けることができた。																																																			
・「つなげる English」をうまく使うことができた。																																																			
・自信を持ってゴールの表現を使うことができた。																																																			

【図7】パフォーマンステスト評価基準表

※「Q&A活動①」の振り返りが評価基準表の左下に設定されている。内容的には別のものであるが、ここに「既習事項を活用させる活動」である「Q&A活動①」の振り返りがあることで、「Q&A活動①」を行うたびに、当該単元の目標、評価基準等を目にすることとなる。この工夫は、到達すべき目標を意識するとともに、自分の成長を測りな

がら「即興でやり取りする言語活動」に取り組むことができるよう工夫したものである。

イ 生徒へのフィードバックの方法

パフォーマンステスト実施の際、生徒は自分の評価基準表を持参してテストに臨む。テストの実施及びその後のフィードバックの方法は以下のとおりである。

- ① パフォーマンステスト実施後、教師は、生徒持参の評価基準表に評価を直接記入（該当する評価基準の位置に○などの印を記入）し、結果を生徒と共有する。
- ② 教師は、評価を記入済みの評価基準表を生徒に返却する。
（この際、生徒の評価は別表に記録しておく。）
- ③ 生徒は、自分の評価を確認後、パフォーマンステストの振り返りを文章で記述する。
- ④ 生徒は、振り返りを記述後の評価基準表を、担当の教師に提出する。
- ⑤ 教師は、生徒から提出された評価基準表を基に評価結果及び振り返りの内容を取りまとめ、課題の把握を行うとともに、授業改善に生かす。

4 検証授業①「既習事項を活用させる活動（帯活動としての Q&A 活動）」の検証（第 1 学年）

(1) 使用教科書・単元名 TOTAL ENGLISH 1 Lesson 5 “Ms. Allen’s Family”

(2) 単元の目標

ア 一般動詞の 3 人称単数現在形を含む文の構造を理解する。

イ 疑問詞 who を用いた文の構造を理解する。

ウ 写真などを使って、自分の親しい人を口頭で紹介する。

エ 既習事項を活用して、即興でやり取りする基礎的な力を身に付ける。

(3) 単元の評価規準

ア コミュニケーション への関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての 知識・理解
ペアワークにおいて 間違ふことを恐れず、 積極的に英語を話そ うとしている。	既習事項を活用して、 即興でやり取りする ことができる。	本文を読んで、単語の 意味や表現に留意し て意味内容を正しく 理解できる。	① 3 単現を含む文の構 造を理解している。 ② 疑問詞 who を用いた 文の構造を理解して いる。

(4) 指導観

ア 単元観

アレン先生の家族を題材に使いながら、「3 人称・単数・現在形の-s（以下「3 単現の-s）」を用いて、「自分」が「自分以外」の人について説明する表現について学習する。

イ 教材観

Q&A 活動用のワークシートを用いて、既習事項を繰り返し活用するための疑似的なやり取りの活動を行ったり、マッピングシートを用いて、教科書の登場人物を紹介するやり取りの活動を行ったりする。この際、Q&A 活動が実際のやり取りの活動につながる段階的な指導となるように、Q&A 活動の一部に生徒自身が即興で表現する部分を設定している。Q&A 活動を継続して実施することで、既習の語彙や表現の定着を図り、生徒が即興でやり取りする活動において、これらの語彙や表現を活用できる力を付けていきたい。

(5) 単元の指導計画(8時間扱い)

	学習内容・学習活動	評価規準(評価方法)
第1時	・帯活動 ・「3単現の-s」の導入 ・5A新単語及び本文①	エ①(観察)
第2時	・帯活動 ・5A本文②	ウ(観察)
第3時	・帯活動 ・「3単現の-s」の疑問文 ・5B新単語及び本文①	エ①(観察)
第4時 (本時)	・帯活動 ・5B本文②	ア(振り返りシート) イ(ワークシート)
第5時	・帯活動 ・Whoの疑問文 ・5C新単語及び本文①	エ②(観察)
第6時	・帯活動 ・5C本文②	ウ(観察)
第7時	・帯活動 ・Review	エ②(ワークシート)
第8時	・発表活動(親しい人を紹介する)	イ(発表形式)

(6) 年間指導計画における位置付け

一学期には、1人称、2人称、3人称を学習した。1人称、2人称については be 動詞、一般動詞を含んだ内容であったが、3人称は、be 動詞を使ったもののみであった。この単元では、3人称について一般動詞を使った表現を学ぶことで、表現の幅を広げることを目指す。

(7) 本時の展開

ア 本時の目標

(ア) 帯活動としての Q&A 活動において、適切なつなぎ言葉等を使いながら、ある場面について即興でやり取りする。

(イ) 帯活動としての Q&A 活動で定着を図った既習事項を活用し、メモを基に教科書の登場人物について紹介したり質問したりしようとする。

イ 本時の展開

時間	指導過程	学習活動	指導上の留意点	評価規準(評価方法)
5分	1 挨拶 単語復習	・挨拶のあと、クリス・クロス形式で単語の復習	・オールイングリッシュで、英語で授業を行う雰囲気をつくる。	
15分	2 帯活動	・ Q&A 活動① (ワークシート) -教師による実演 -生徒による活動(全体) -教師からのフィードバック ・ Q&A 活動② (ワークシート) -教師と代表生徒による実演 -生徒による活動(全体) -代表生徒によるペアワーク -教師からのフィードバック -生徒による振り返り	・使用する表現等の再確認。 ・モニタリングを行い、気付いた点についてフィードバックを行い、よりよい活動へとつなげる。 ・指定された場面でのやりとりを行う。 ・モニタリングを行い、気付いた点についてフィードバックを行い、よりよい活動へとつなげる。	ア(振り返りシート)
10分	3 本文②	・Paced Reading ・Shadowing	・読み方に変化をつけ、かつ段階的に発展的な読み方に	

		<ul style="list-style-type: none"> • Repeating • J to E Reading 	していく。	
5分	4 聞き取り	<ul style="list-style-type: none"> • 教科書の Activities Listening 	<ul style="list-style-type: none"> • 1回目の聞き取りでどの程度聞き取れるか確認する。 	
10分	5 即興でやり取りする言語活動	<ul style="list-style-type: none"> • マッピングシート トピック「教科書の登場人物を紹介する。」 教師による実演 -生徒による活動（全体） -代表生徒によるペアワーク -教師からのフィードバック -生徒による振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> • 教科書の登場人物について、3人称単数現在形を用いて説明したり、Does ~? を使ってたずねたりしているかモニタリングを行い、気付いた点についてフィードバックを行う。 	イ（ワークシート）
5分	6 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> • 振り返り • 宿題の提示 • 終わりの挨拶 	<ul style="list-style-type: none"> • それぞれの活動の振り返りを確認させ、次回の授業につなげる。 • 宿題を提示して授業内で取り組ませ、机間巡視を行い個別に取組状況を観察する。 	

(8) 授業観察の視点

- Q&A 活動①を通じて既習の語彙や表現の定着が図られていたか、またそれらの語彙や表現が Q&A 活動②やマッピングシートを用いた活動でのやり取りに活用されていたか。
- Q&A 活動②が、「即興でやり取りする言語活動」への段階的な指導となっていたか。
- やり取りにおいて、つなぎ言葉等を適切に使用できていたか。

(9) 検証授業①における成果と課題

ア 検証授業①における成果

Q&A 活動①では、「○曜日に何をしますか」という質問に対して、「○曜日には～します」と答えるやり取りが円滑に行われており、既習の語彙・表現が定着していることが分かった。Q&A 活動②では、生徒による「振り返り」から「つなげる English」を意識的に使う生徒が増加していることが分かった。ペアにおける生徒同士の教え合いや、How about~?を使った相手への聞き返しの質問に習熟している様子を見取ることができた。「即興でやり取りする言語活動」に向けた段階的な指導であるマッピングシートを用いた活動では、生徒による文章での振り返りの結果から、生徒の課題が明確になり、その課題を授業改善に生かすことができるようになった。生徒に「振り返り」を行わせる活動としたことで、生徒自身が自己の変容を理解し、意欲的に学習に取り組めるようになった。

イ 検証授業①における課題

Q&A 活動①では、既習の語彙・表現に関わる練習が不足していたために、活動の際、自信をもって発話できない生徒が一部見られた。Q&A 活動②ペアワークでは、教師による活動中のモニタリングが不足しており、生徒へのフィードバックが不十分だった。マッピングシートでは、既習事項を本時の内容に関連したやり取りに活用させる指示が十分でなかった。生徒への指示として、「必ず Does~?を用いた質問を行う」とするべきであった。

帯活動としての Q&A 活動で扱った表現（一人称・二人称を用いた What time~?の疑問文）と本単元で扱う文法事項（三人称単数現在形）が異なっていたため、一つの授業として扱うには、これら二つの内容の直接的なつながりが弱いものとなってしまった。今後は、帯活動としての Q&A 活動で定着を図った語彙や表現が、その授業内で効果的にやり取り

に使用されるよう、言語活動を設定する必要がある。

5 検証授業②「即興でやり取りする言語活動」の検証（第3学年）

(1) 使用教科書・単元名 NEW CROWN 3 Lesson 6 “I Have a Dream”

(2) 単元の目標

ア 後置修飾の形を理解し、ある物や人についてより詳しく、即興で話すことができる。

イ キング牧師についての物語文を読み、その概要を読み取ることができる。

ウ 尊敬する人物やあこがれの人物を紹介する新聞の投稿記事を書くことができる。

エ キング牧師のスピーチを通じて、公民権運動など当時のアメリカの時代背景を理解する。

(3) 単元の評価規準

ア コミュニケーション への関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての 知識・理解
個人活動、ペアワーク において間違ふことを 恐れず、積極的に英語 を話そうとしている。	①既習事項を活用して、 即興でやり取りを続 けることができる。 ②後置修飾の文を用い て、メモを基に人物を 紹介する文を書くこ とができる。	①本文を聞いたり、読 んだりして、その概 要をつかむことがで きる。 ②時系列に沿って本文 の内容をまとめるこ とができる。	①後置修飾の形（現在 分詞・過去分詞・接 触節）を理解し、使 うことができる。 ②アメリカの文化的背 景を理解する。

(4) 指導観

ア 単元観

本単元“I Have a Dream”では、生徒が「アメリカの公民権運動」、「キング牧師」について知り、本文の内容を理解し、実際にキング牧師のスピーチを見ることで、「キング牧師のスピーチの内容や伝え方」について考える機会としたい。本単元のゴールとなる活動では、生徒の「尊敬する人物」「あこがれの人物」について、メモを基に紹介記事を書く活動を扱う。

言語材料としては、後置修飾（現在分詞、過去分詞、接触節）を扱う。生徒に身近な場面を設定し、言語活動につなげたい。これまで、①前置詞句による後置修飾（1年次）、②不定詞の形容詞的用法（2年次）、③関係代名詞（that, who, which）（3年次）を扱ってきたが、今回、④現在分詞、⑤過去分詞、⑥接触節による後置修飾を扱うことにより、句による修飾から節による修飾へと難易度が上がっていることから、日本語と英語で名詞の修飾の仕方が異なるということを、活動を通じて生徒に気付かせていきたい。

イ 教材観

既習事項の復習として、プレゼンテーションソフトを用いて3ヒントクイズを出したり、「ある有名人」について既習事項を用いて即興でやり取りしたりする。その際、アイデアを書き出すマッピングシートを用いることで、メモを基にしたスムーズなやり取りとしたい。本活動を継続して授業に取り入れていくことで、生徒の「会話を継続させる力」を付けていく。本文の導入については、オーラルインタラクションを行い、やり取りを行うことで生徒の発話を促していく。新出単語についてもイラスト等を提示し、やり取りを通じて、生徒から引き出していきたい。

(5) 単元の指導計画(10時間扱い)

	学習内容・学習活動	評価規準 (評価方法)
第1時 (本時)	・帯活動 (3ヒントクイズ、1 Minute Talk) ・L6 Get Part 1 新出単語及び本文① ・「後置修飾 (現在分詞)」の導入	ア (観察) イ① (ワークシート) ウ①
第2時	・帯活動 ・「後置修飾 (過去分詞)」の導入 ・L6 Get Part 1 本文②	ア (観察) エ① (ワークシート)
第3時	・帯活動 ・L6 Get Part 2 新出単語及び本文① ・「後置修飾 (接触節)」の導入	ア (観察) イ① (ワークシート)
第4時	・帯活動 ・L6 Get Part 2 本文②	ア (観察) エ① (ワークシート)
第5時	・帯活動 ・L6 USE Read 新出単語及び本文①	ウ① (観察、ワークシート)
第6時	・帯活動 ・L6 USE Read 本文②	ウ② (観察、ワークシート)
第7時	・帯活動 (スピーチについてのまとめ) ・L6 USE Read 本文③	イ① (ワークシート) エ②
第8時	・L6 USE Write① (「尊敬できる人」についての記事をいくつか読み、文章の構成、執筆手順を理解する、自分のメモを作る)	ア (グループワーク) イ② (ワークシート)
第9時	・L6 USE Write② (「尊敬できる人」についてパラグラフを意識し、自分の記事を作成する)	イ② (ワークシート)
第10時	・「尊敬できる人」についてグループでシェア ・L6 の文法のまとめ (修飾することば)	エ① (ワークシート)

(6) 年間指導計画における位置付け

Lesson5 において、生徒は関係代名詞(that, who, which)を含んだ英文について既に学習している。より詳細に「名詞」に説明を加えるということについて、これまで行ってきた3ヒントクイズ等を通じて慣れ親しんでいると考えられる。この単元で後置修飾 (現在分詞・過去分詞、接触節) について扱うことで、「名詞」を説明する表現の幅を増やすとともに、日本語と英語を対比する形で修飾関係における「日本語との類似性、相違性」について目を向けさせ、これらの表現に関する気付きを促せると考える。

(7) 本時の展開

ア 本時の目標

- ・ 知っている有名な人物について、既習事項を用いながら、即興で相手に説明をすることができる。
- ・ 後置修飾 (現在分詞・過去分詞) の形について理解し、その文を含んだ英文の内容を正確に読んだり、聞き取ったりすることができる。

イ 本時の展開

時間	指導過程	学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
6分	1. Greeting 2. Warmer	・挨拶 活動1: Picture Describing ・3ヒントクイズ (スライドに映った人物や物について3文以内で説明し、互いに答える。)	・モデルを示し、生徒が言語活動を行いやすい雰囲気をつくる。 ・必要に応じて、生徒の説明を全体で共有する。	ア イ① (観察)

10分	3. Freer Activity	<p>活動2: Minutes Talk 有名人について例を参考に、1分間を2回、ペアでやり取りする。</p> <p>T: Name a famous person. For example, do you know this person? (※例の提示)</p> <p>T: Please talk about a famous person with your partner.</p> <ul style="list-style-type: none"> • 会話をする前に、1分間 マッピングシート に記入をする。 	<ul style="list-style-type: none"> • 有名人の写真を見せ、生徒から英文の続きを引き出しながら “This is the person who ~” の関係代名詞を使わせた文を含めた会話を展開する。 • 生徒に “This is the person who/that ~” 表現を用いることを伝える。 • マッピングシートを1分で記入させる。 • 「つなげる English」を使わせる 	
8分	4. Lead in Oral Interaction	<p>Oral Introduction</p> <p>T: What do you see in this picture?</p> <p>Ss: I see many people / a pool / some trees. etc.</p> <p>T: Do you know the president Lincoln? This is Lincoln Memorial. Where is it? The capital of the USA. (オバマ前大統領、トランプ大統領の写真を見せる。) They made their speech there. This is a very famous place in the USA.</p> <p>T: Do you know this person? (Martin Luther King, Jr の写真を見せる)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 教師の話す英文についてメモを取り、ペアで共有する。 • Listen carefully. Please take a note. (※Martin Luther King, Jr.に関する説明) • Talk in pairs. Check in the class. 	<ul style="list-style-type: none"> • 写真を見せながら、生徒とインタラクションを進めていく。 • 難しければ、Lincolnの像に注目させる(拡大していく)。 • Lincoln Memorial がアメリカのワシントンにあり、重要な場所であることを印象付ける。 • Martin Luther King, Jr. の写真を見せ、キング牧師やアメリカの歴史に関心を向けさせる。 • はっきりとした口調で話す。 <p>ペア、クラスで簡単に情報を共有する。</p>	ア イ① (観察) (ワークシート)
3分	5. Set the Scene (Oral Introduction) Prediction	<ul style="list-style-type: none"> • ポールが久美に見せる「水飲み場」の写真を見て、何を表しているか予想する。 <p>T: Look at the picture. What are these men doing?</p> <p>Ss: They are drinking water.</p> <p>T: Do you see any words?</p> <p>Ss: For colored only.</p> <p>T: What does “colored” mean? What kind of people do you think?</p> <p>St: Black people.</p>	<ul style="list-style-type: none"> • ポールと久美の会話を聞かせる前に、内容を予想させる。 • 写真の手前に “For Colored Only” のフレーズが見えることに気付かせる。 	ア
3分	6. Pre-Teaching Vocabulary	<ul style="list-style-type: none"> • 新出語彙について簡単に使い方を確認する。 • 発音する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 生徒にイラストなどでヒントを与えながら、新出語彙を生徒から引き出していく。(例文を提示) 	ア

4分	7. Listening for gist	活動3 : ・ポールと久美の対話を1度聞かせ、質問に答える <ワークシート> ・Talk in pairs. Check in the class. ・ペアでチェックする。 ・全体で答え合わせをする。	・ワークシートのリスニングポイントを見させ、対話を聞かせる。	ア ウ① (ワークシート)
4分	8. Listening for detail & Reading for detail	活動4 : もう1度対話を聞き、Q&Aに答える。 <ワークシート> ・Talk in pairs. Check in the class. ・ペア、クラスでチェックする。	・対話を聞く前に Q&A の問題に目を通させ、聞き取りのポイントを確認してから聞かせる。 ・スペルを生徒から引き出す。	ア ウ① (ワークシート)
10分	9. Grammar Practice Using the target language	活動5 : 後置修飾 (現在分詞) の形について、提示されたイラストを見ながら表現方法を理解し、ワークシートを基に聞き合う。(インフォメーション gap) ・ペアで交互に <u>A: Who is ○ ○?</u> <u>B: She is the woman taking a picture with △ △.</u> などと聞き合う。 ・全体でシェアをする。 <ワークシート A B>	・プレゼンテーションソフトを用い、「○○は～をしている□□です」を引き出し、全体個人で言わせる。 ・モニタリングをしながら、必要があれば表現の手助けをする。	ア エ① (ワークシート)
2分	10. Feedback Consolidation	・活動の振り返りを行う。 ・課題を確認する。		

(8) 授業観察の視点

- ・ **活動1 (Picture Describing)** 及び **活動2 (Minutes Talk)** において、積極的に1分間会話を続けようとしていたか。
- ・ 前時で学習した表現「関係代名詞」を、3ヒントクイズや **活動2** での「即興でやり取りする言語活動」において活用できていたか。
- ・ **活動5** において、後置修飾の「現在分詞」を使って相手から情報を得ようとしていたか。

(9) 検証授業②における成果と課題

ア 検証授業②における成果

既習の関係代名詞を用いての **Picture Describing** では、ペアで行う3ヒントクイズの形を継続して扱い生徒も十分に慣れ親しんでいたこともあり、意欲的に取り組む生徒が多かった。また、既習の語彙や表現を活用して、見たものを相手に説明できている。マッピングシートは導入して間もないが、生徒の振り返りから「与えられたトピックについて短時間で整理でき、自分が伝えたい内容をまとめることもできる」という意見も多く、引き続き使用することで、生徒の「会話を継続させよう」という意欲を高めていきたい。

イ 検証授業②における課題

Picture Describing はクイズ形式で行い、相手が全てのヒントを言ってから答えを推測するという流れで実施したため、本時では十分な「やり取り」にならなかった。今後は「つなげる English」などを使わせながら、答えを推測するために必要な情報を出題者に質問し、出題者がそれに答えるという流れをつくる必要がある。「マッピングシート」を用いた

「即興でやり取りする言語活動」は、既習事項（関係代名詞）を用いて「知っている有名人」について話すという内容であった。関係代名詞を用いた文を例示したが、やり取りにおいて「必ず関係代名詞を用いること」という指示が十分に生徒に伝わらなかったため、既習事項の活用に課題が残った。「つなげる English」などを用いて会話を継続させるとともに、既習事項を活用する意識をもたせた上で活動を開始するべきであった。また、既習事項を活用してスムーズなやり取りが行えるよう、何度か同じトピックで練習を重ねることも視野に入れて活動を継続していきたい。

Ⅶ 研究の成果と課題

1 研究の成果

各活動における生徒の振り返りの集計結果等から、以下のとおり生徒の変容を見取ることができた。

(1) 「既習事項を活用させる活動」における変容

Q&A 活動では、生徒の振り返りから「つなげる English」を活用すること、既習事項の活用を図る過程において即興でやり取りをすること、間違いを恐れず会話を続けることなどの項目についても、「よくできる」「できる」の合計の割合が最終的に8割を超えたことが分かった。既習事項の活用を通じて即興でやり取りする力の基礎が育成されており、本活動が「即興でやり取りする言語活動」を支える役割を果たしていることが分かった。

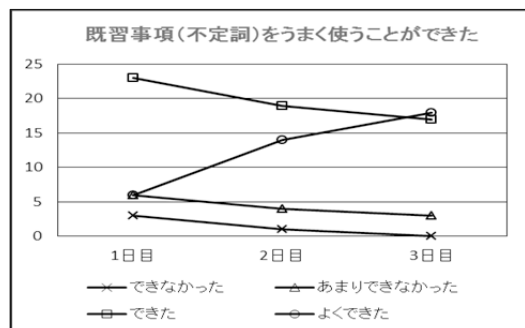
(2) 「即興でやり取りする言語活動」における変容

ア 生徒自身の自己評価（振り返り）から

Minutes Talk の実施後、①習った表現を使ってその場でやり取りできたか、②「つなげる English」を使って会話を継続できたか、③間違いを恐れず英語を話すことができたか、について生徒に振り返りをさせた。振り返りの結果は以下のとおりである。

①習った表現を使ってその場でやり取りできたか

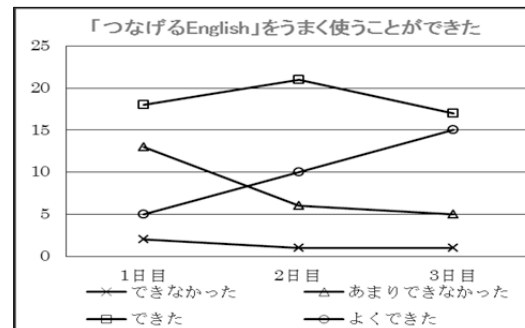
対象：第2学年（38名） 検証回数：3回



1日目では「よくできた (○)」が6名であったが、最終的には18名が「よくできた」となった。これに伴い他の項目は減少している。最終的に「よくできた」と「できた (□)」の合計は38名中35名(92%)となっており、Q&A 活動を通じて定着した既習事項が、本活動で活用できるようになっていることが分かる。

②「つなげる English」や聞き返しの表現を使って会話を継続できたか

対象：第2学年（38名） 検証回数：3回



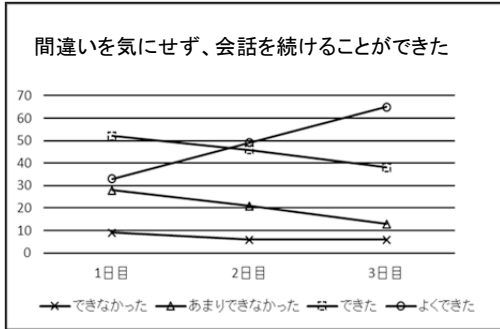
「よくできた (○)」が1日目の5名から3日目の15名へと増加した。最終的に「よくできた」と「できた (□)」の合計は38名中32名(84%)となり、本活動における活用を通じて、既習事項やつなぎ言葉等への習熟が進んでいることが分かる。

【図8】

【図9】

③間違いを恐れず英語を話すことができたか

対象：第1学年（122名） 検証回数：3回



「よくできた (○)」が1日目の33名から3日目の65名に増加した。最終的に「よくできた」と「できた」の合計は122名中103名(84%)となり、積極的にやり取りを行っていることが分かる。

【図 10】

なお、発話量の変化については次項「イ 教育研究員による見取りから」のとおりである。また、振り返りの記述欄には「1日目：間違いを気にせずにできたが、会話が途中で終わってしまうことが多かった。」「2日目：前回よりは会話の量が増えたので良かった。また、can や when を使って会話をすることができた。」「3日目：スムーズに会話が進みたくさん話すことができた。」とあるように、回数を経験するごとにやり取りが円滑になっていることがうかがえる。

イ 教育研究員による見取りから

Minutes Talk における生徒同士の対話を再現した内容は以下のとおりである。左側が初回のサンプル、右側が3回目のサンプルである。発話量・回数が増えていることが分かる。

<初回サンプル（1分間）>

A: Hi, What's the best food you've ever eaten?
 B: Well, the food I like the best is *kimuchi nabe*. Do you like it?
 A: Uh...yes. Why?
 B: Uh...it's...because my mother cooks it, it's very delicious and I like udon.
 A: Oh, I see. Uh....I like udon too.
 B: Really?
 A: Yes. Uh.....well, I often eat udon in my house.
 B: Oh, you eat udon?
 A: Yes.
 B: Nice. And what's the best food you've ever eaten?
 A: The best food I have ...ever eaten is kakigori.
 B: Oh, you like *kakigori*? Why?

※生徒の発話内容をそのまま掲載した。初回の単語数 84 語から、3 回目の単語数 134 語と、発話量が大幅に増加している。また、下線部は直近の既習内容を発話している部分である。

<3回目サンプル（1分間）>

A: Hi, what's the best place you've ever visited?
 B: Let's see, ... the best place I have visited is Hokkaido.
 A: Oh, you like Hokkaido? Uh...why do you like Hokkaido?
 B: Because.....I like *jingisukan*, miso ramen and so on. Do you like *jingisukan*?
 A: Yes, I do. Tell me more.
 B: Oh, yes. I went there for a week last summer. I visited Asahiyama Zoo. I like Asahiyama Zoo.
 A: Really?
 B: Yes. It's very interesting. You should visit it.
 A: Yes.
 B: And how about you? What's the best place you've ever visited?
 A: I like Okinawa the best.
 B: Oh, you like Okinawa? Why?
 A: Well, I like the sea. I went to a beautiful sea.
 B: Wow! Nice. And Okinawa is famous for its Soki Soba? Did you eat Soki Soba?
 A: No, I didn't.
 B: Oh.
 A: But I ate pineapples and ice cream.
 B: Nice.

また、本活動からパフォーマンステストの実施までの一連の活動を繰り返し指導することで、生徒は学習のゴールを意識して活動に取り組むようになり、やり取りの内容が深まっていくことが確認できた。例えば、1年生で第三者を紹介するようなトピックでは、1回目では用いていなかった can を、3回目で内容に付け加えて用いるなどの変化を見ることができた。

(3) 「学習意欲を高める課題」における変容

パフォーマンステスト後の生徒の振り返りには以下のように、次の学習に向けた意欲的な記述が半数を超え、今後の学習に対する意欲が向上していることが伺えた。評価基準表を活用したパフォーマンステストの実施は、「即興でやり取りする言語活動」に対する学習の見通しを生徒がもてるようにするとともに、フィードバックを通じて言語活動に取り組む学習意欲を高める役割を果たしていることが分かった。

【パフォーマンステスト後の生徒の振り返り（記述内容）】 ※生徒の記述をそのまま掲載

- ・最初のテストより「つなげる English」を使えたからよかった。つかえることがあったから、次はつかえないようにしたいです。
- ・今まで練習してきたことを振り返って、つなげる English を5回くらい使えたので良かったと思います。あとはもっとスラスラいえるようになりたいです。
- ・スラスラと会話を続けるのが難しかったけど、相手の言っていることをよく聞いて答えることができたのでよかったです。
- ・会話はできたけど、like など似たようなことしか聞けなかったの、最近習った can, use, hear などいろいろな単語が使えればよかったと思います。
- ・今回のテストで今まで練習してきた英文や単語をうまく言うことができました。なので、次のパフォーマンステストも頑張りたいと思います。

2 研究の課題

本研究における授業実践を通じて、生徒の「目的や場面、状況等に応じて即興でやり取りする力」を高めることができた。一方で、「即興でやり取りする言語活動」で生徒が必要とする語彙や表現を、「既習事項を活用させる活動」で十分に指導できたかどうかについては課題が残った。なぜなら、Minutes Talk や Picture Describing においてどのようなトピック、イラスト・写真を提示したかによって、生徒が「即興でやり取りする」ことのできる内容に差が見られたからである。例えば Minutes Talk や Picture Describing において、「歴史上の有名な人物」を提示した場合よりも「身近な有名人」を提示した場合の方が、生徒が即興で話すことのできる内容が多かった。これは、「身近な有名人」については日常生活の中で慣れ親しんでいる語彙や表現で話すことができるが、「歴史上の有名な人物」については生徒があまり慣れ親しんでいない語彙や表現を用いなければ説明することができなかつたからだと考えられる。

今後は、「即興でやり取りする言語活動（Minutes Talk、Picture Describing）」を実施する際に、そこで必要とされる語彙や表現に対する生徒の習熟度を把握し、不足すると思われる場合には「既習事項を活用させる活動（帯活動としての Q&A 活動）」に立ち戻り、必要な語彙や表現を補うような指導を行っていく必要がある。また、「即興でやり取りする言語活動」をより効果的に実施するために、扱うトピックと、必要となる語彙や表現を事前に十分把握し、「既習事項を活用させる活動」に計画的に位置付けるなど、語彙や表現を提示の仕方についても、工夫していく必要がある。

平成 29 年度 教育研究員名簿

中学校・外国語

学 校 名	職 名	氏 名
港 区 立 高 松 中 学 校	主任教諭	塩畑 英朋
大 田 区 立 大 森 第 二 中 学 校	主任教諭	富崎 昌隆
世 田 谷 区 立 桜 丘 中 学 校	主任教諭	◎ 樋口 英美
足 立 区 立 入 谷 南 中 学 校	主任教諭	星 正行
葛 飾 区 立 中 川 中 学 校	教 諭	橋本 晋作
日 野 市 立 日 野 第 一 中 学 校	教 諭	野地 優子
武 蔵 村 山 市 立 第 三 中 学 校	教 諭	松橋 翔

◎ 世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部義務教育指導課
指導主事 早川 裕之

平成 29 年度

教育研究員研究報告書

中学校・外国語

東京都教育委員会印刷物登録

平成 29 年度第 142 号

平成 30 年 3 月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号
電話番号 (03) 5320-6849
印刷会社 康印刷株式会社